

研究結果報告書

所属 広西師範大学

役職 准教授

氏名 肖 江楽

研究結果

報告者は、近代日本初の英和辞書『英和对訳袖珍辞書』を研究対象とし、調査を行った。『英和对訳袖珍辞書』は、1862年に、堀達之助と、協力者である西周助・千村五郎・竹原勇四郎・箕作貞一郎らによって、幕府洋書調所から刊行された近代日本初の本格的な英和辞書である。英語の学習が急速に普及しつつある当時において、わずか200部の上梓であったが、発行直後に売り切れの状態になった。1866年には、堀越亀之助が再版改訂の主編に任命され、柳河春三・田中芳男らが協力し、訳語に対して大幅に訂正を加え、『改正増補英和对訳袖珍辞書』として開成所で発行された。一方、英学が勃発した地域の一つである薩摩の学生は、1869年に、堀越亀之助の改訂増補版を基にして、辞書全体の見出し語と訳語にカタカナを振り、当時長崎にいた宣教師フルベッキの力を得て、『改正増補和訳英辞書』として上海の美華書館で印刷・刊行した。この辞書は、薩摩の学生によって編纂されたことから、「薩摩辞書」とも称される。また、辞書の序文にはThird edition revisedと付け加えられていることから、『英和对訳袖珍辞書』第3版に当たるものである。2年後の1871年に、辞書初版の編纂主任であった堀達之助の次男一堀孝之が、明治政府の官許を得て、アメリカの英語辞書『ウェブスター大辞典』を典拠とし、新たに8,000余りの語を追加し、第3版と同じく美華書館から『大正増補和訳英辞林』を刊行した。この辞書の序文には Fourth edition revised と記されているため、『英和对訳袖珍辞書』第4版に当たる。

この辞書に関する先行研究はこれまで数多く見られるが、それらに論拠として用いられるデータは部分的に抽出されたものであって、全体を隈なく見渡すという手法を採ることはなかった。本研究は、『英和对訳袖珍辞書』の初版から第4版までの、見出し語や訳語の異同を詳しく分析し、各版の成立をめぐる諸問題について総合的に考察を加えたものである。『英和对訳袖珍辞書』はピカード『英蘭蘭英対訳字典』に基づき、さらに蘭和辞書から訳語を取り入れていったもので、メドハースト『英華字典』との継承関係は1%程度と考えられていた。徹底的な資料調査によって、全体では約3%、およそ1530語にのぼり、その影響は決して少なくないことを明らかにしえた意義は大きい。また、ある訳語の成立をめぐる個別的な課題はもちろんのこと、近代新漢語の語彙という幅広い論点についても実証的に究明が加えられたのも、その筆者独自のデータを駆使できたからに他ならない。さらに、メドハーストやロブシャイトの編集による『英華字典』との関係にも力点をおくことで、近代漢語の成立をめぐる日中の語彙交流をダイナミックに解明している点も大きな特徴と言える。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

題 名 : 語言接觸視角下漢語語彙的現代演化研究
発表者名 : 肖江楽
会 議名 : 外国語文学系列講座特別例会
日 時 : 2022年12月9日
場 所等 : 広西師範大学

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

題 名 : 「健全」の成立とその展開
発表者名 : 肖江楽
論文掲載誌 : 立教大学日本語学第 28 号
掲載時期等 : 2022年3月25日

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)